

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892800012		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし	ユニット名	1
所在地	〒306-0626 茨城県坂東市小山2131-5		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892800012-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年1月13日	評価機関 決 済 日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との関わりを大切に考えることから、年2回家族等や地域住民を招待して事業所主催の「交流会」を開催し利用者が地域の方々と楽しめるよう支援している。開催時には、地域の高齢者が気軽に参加できるよう送迎を職員が行い好評を得ている。自治会にも加入していることから、地区のお祭りに参加するなど利用者と地域住民との交流が出来ている。また、自家菜園で栽培している野菜を食事に提供しており利用者は「目で見て・触れてみて・味わってみて」と五感を刺激するような支援に取り組んでいる。庭には花壇を設け坂東市主催の「花壇コンクール」に開設から毎年応募し毎回受賞している。クリスマスのイルミネーションにも力を入れ地域の方々と共に鑑賞し好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は周りに畑や住宅が点在する場所にあり、自治会の一員として今年度は班長を務めたり、回覧板の受け渡しや地域の清掃活動、お祭りなどに利用者と一緒に参加して地域住民と交流を図っている。
管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築き、意見や要望を聞いて働きやすい職場の環境づくりに力を入れているほか、職員同士コミュニケーションを図ることにより、信頼関係を築いている。
事業所主催の「交流会」に家族等や地域住民を招待するほか、地域のボランティアを受け入れるなど、利用者が地域住民と交流ができるよう支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ理念を作成し玄関に掲げている。理念の意義を確認し意識を高め実践出来るよう取り組むと共に職員は、常に明るく入居者、ご家族の話聞き全ての人が笑顔あふれる施設作りに努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、誰もが目にすることができるよう玄関に掲示している。 理念は職員が日頃から各自で確認するほか、月1回の職員会議で再確認をして認識を深め、共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区長さん、民生委員さんの協力を得て年2回地域の方々を招き地域交流会を開催している。その際には地区のシニアクラブ・八木節保存会・そば打ち実演などボランティアの方々の参加があり楽しみとなっている。自治会にも加入し総会・公民会清掃缶拾いにも参加している。	事業所は自治会に加入して職員が総会に出席しており、清掃活動や今年度は地区の班長としての仕事をこなすなど、地域の一員として交流をしている。 毎年5月と10月に事業所主催の「交流会」を利用者や家族等、地域住民を招待して100人規模で開催し、地域住民との交流の場となっている。 「交流会」では和太鼓演奏やボランティアによる八木節、ハーモニカやマンドリン演奏のほか、そば打ちの実演やおにぎり、てんぷらなどを作って振舞っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会や散歩などで顔馴染みとなり、お互いに声を掛け合うことで認知症の理解が深まるようになってきている。運営推進会議には、行政、地域の代表、ご家族の代表の参加があり、その際に認知症、介護の事など質疑応答の時間を持つようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。毎回入居者代表、ご家族代表、地区長さん、民生委員さん、介護福祉課職員、地域包括支援センター職員の方々が出席して下さり、施設の活動報告・お互いの意見交換の場としてサービス向上に活かしている。運営推進会議議事録を作成している。	運営推進会議は利用者や家族等、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、施設長、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動報告や行事予定、運営状況の説明をするほか、出席者と活発な意見交換を行い、出た意見などを職員会議で報告して検討し、サービスの質の向上に活かしている。 精神的に落ち込まないための心構えとして「穏やかな気持ちで過ごしましょう」を紙に書いて目で確認するなど、出席者からの提案を受けて職員会議で協議し、職員各自が実践している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などのお知らせは、電話やFAXではなく直接訪問している。市役所からの紹介の生活保護の方が入居されているため月1回市担当の訪問がある際には入居者の状況などについて報告している。運営推進会議の場では情報提供をいただいている。	管理者は日頃から市に積極的に足を運び、運営推進会議のお知らせや空室状況、ケアサービスの取組みを伝え、連携を図りながら協力関係を築くよう努めている。 月1回生活保護受給利用者と面談をするため、市担当者が来訪するので、その時に情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、身体拘束廃止に向けての方針を掲示している。施錠しないケアを実践する為職員間で話し合い施錠しない時間をつくるようにしている。外に出たがる入居者の方には、意思を尊重し職員が付き添い外出している。感情的になる入居者にも拘束や言葉で押さえつけることはせず、話を聴き寄り添う支援をしている。	身体拘束廃止に向けての方針を玄関に掲示しているほか、月1回の内部研修で身体拘束に関する研修を実施するとともに、事例を通して話し合い、再確認をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 帰宅願望の強い利用者がいたため、家族等から同意を得て玄関を施錠していたが、今年になりその利用者が落ち着いてきたので、現在は玄関の施錠を解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修を行い、虐待の理解を深め身体的虐待、心理的虐待などを防止するように管理者や職員が目配りにしている。職員の精神面や言動に変化があれば話し合う機軸を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について資料を配布し、話し合いしながら研修会を行っている。ご家族の状況に合わせ施設長に相談し社会福祉協議会と連携するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時の契約などは、入居者・ご家族のご希望を十分にお伺いして自宅での生活、生活パターン、困りごとや不安を感じる事などアセスメントを行い説明して理解・納得をしていただいているようにしている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や面会時、毎月の利用料支払い時、施設の行事の際にも管理者・職員は、ご家族のご意見やご要望を聴くよう務めている。ご家族にアンケートをお願いし、集計を行い問題点、改善点がないか話し合っている。その結果を運営推進会議で報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者は会議の場などにおいて、運営に関することや、提案を聞く機会をつくっている。その際出た意見を記録している。	管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境を築いているほか、個々の事情を汲み入れた働き易い職場の環境づくりに努めている。 管理者は月1回の職員会議で、職員の意見や要望を聞いており、「野菜棚がほしい」や「車いすを購入してほしい」など、出た意見等を検討して、野菜棚の設置や車いすを購入するなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や話し合いの場を設け給与、労働時間、不満やストレスを感じていないかなどの意見を聞き常に職員が仕事をしやすい環境を整えるようにしている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講習会への参加を支援し施設内研修を実践している。また職員間でも介助方法や接し方など良い方法を考え話し合いながら、お互いがスキルアップ出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域施設部会等に参加し勉強会をしている。他施設の方との交流を持ち、お互いの情報交換をしてネットワーク作りをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話を良く聴いて安心していただけるようにしている。常に困った事、不安な事、して欲しい事などを聴きながら慣れていただけるよう、職員との関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や見学・訪問時に自宅での過ごし方や状態、困りごと、不安な事などを聞いている。ご家族が自宅で大変だったと思う気持ちに、寄り添いながら良い関係を作れるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人ご家族との十分な話し合いで要望、状態に合った支援の方法を考えている。福祉用具、理容サービス、訪問歯科等必要なサービスについても取り入れるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者に昔の風習や生活の知恵を教えてもらう事により尊重し寄り添いながら、共に暮らす家族のような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会時やお電話で近況を報告したり、運営推進会議には、ご本人とご家族に出席して頂き、活動報告、近況報告をしている。家族会開催時には、ご本人とご家族の団欒の場を設け、絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には制限はなくご本人が大切にしてきた知人、友人、親類の方々には、気軽に面会に来ていただき、居室で居心地良く過ごして頂ける様になっている。お盆、お彼岸など外出を希望する場合はご家族の協力や職員の外出支援を行い、ご家族や馴染みの方と過ごす時間を大切に頂ける様に支援している。	職員は利用者との日常の会話や家族等から話を聴いたり、アセスメントシートを活用して利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人、場所を把握している。 利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるよう、来訪時にはお茶を出して接待するほか、家族等の協力を得て馴染みの美容室や店での買い物、外食、墓参りに行けるよう連絡調整するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を理解し、職員が必要に応じて関わり、トラブルにならないようタイミングを図り声掛けしている。お話が出来る場を設けたり、一緒に行うレクリエーションなどを勧め孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望で看取りの入居者がありました。主治医とご家族との連携を行いながら対応し、病院ではなく慣れ親しんだホームで義父、義母が最期を迎えられた事に感謝していただきました。その後祖母も看取って頂けたらとご入居されました。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に声を掛けたり話を良く聞き、表情や日常会話などから本人の意向などを伝えやすい環境づくりに心がけ、意思疎通が困難な入居者の場合は、表情やしぐさから判断したり、ご家族から情報を得て入居者の思いの把握に努めている	職員は日常の関わりや会話を通して利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めるとともに、個別に介護記録に記載して全職員で共有している。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中で表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員で話し合っ利用者思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前のケアマネジャー、市の担当の方などから生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の情報収集をし、ご家族や職員と共有しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、職員全員が心身の状態把握に努めるようにしている。表情・発言・態度などから体調や様子の変化に気づき対応できるように心掛けている。一人々の状態に合わせた支援に取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には、ご家族とご本人の意向を良く聞き、課題・ケア内容を考え計画を立てるようにしている。入居後も日々の生活のなかからご本人、ご家族と相談し職員のきずいた事や意見を取り入れ介護計画を作成し同意を得ている。	介護計画は計画作成担当者が利用者や家族等の希望を取り入れ、検討会議で課題やケアのあり方を話し合い、意見をまとめて作成し、家族等の同意を得ている。 職員が毎日記入する利用者の介護記録を基に、毎月モニタリングを実施して1年毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入の際、バイタル・食事量・排泄チェック・ケアの実践・気づきや状態を記入し、職員と話し合い情報を共有しながら、日々の生活に取り入れ活かし、介護計画の見直しなどにも反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況・希望に合わせてご家族との外出・外泊などを支援している。面会時間を決めず心配な時などは宿泊できる体制も整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽器の演奏、地区のシニアクラブ、そば打ちなど様々なボランティアとの交流をしている。花見やマラソン観戦などの時には、近所の方がカメラマンとして参加して下さり、その時の写真を入居者と職員で見ることもしみのひとつとなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人、ご家族等に協力医院を主治医にすることを説明し、同意を得ている。月1回協力医院の医師による訪問診療や状態変化や緊急時には24時間連絡が取れる体制となっている。また随時訪問歯科診療が受診できるよう支援している。他専門医の受診はご家族の支援や職員が支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本とし、協力医療機関の医師による月1回の訪問診療や随時訪問歯科診療が受診できるよう支援している。 利用者の状態に変化が生じた場合や緊急時には、いつでも適切な医療が受けられるよう、協力医療機関と24時間連絡が取れる体制となっている。 受診結果は家族等に報告するとともに、個人ファイルに記載し職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員に入居者の健康状態の変化時は、相談し受診や看護を受けられるような体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医以外にも協力医院としての医療機関も定めている。入院処置が必要となれば、主治医と連携を図り対応することになっている。また早期に退院出来る様に医療機関の医師、相談員等と連携し退院後の留意点などを伺い、受け入れの体制を整えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りに向けた施設の対応方針をご家族等に説明している。終末期の段階になったときには、ご家族等に希望を再確認し、希望に添った終末期をおくれるようにしている。看取りに向けて主治医と24時間の連携体制を築いている。また、看取りに向けた職員の意思と知識習得のため看護師を交え研修会を行っている。	契約時に事業所の「看取り介護の方針」を利用者や家族等に説明するとともに、書面で同意を得ている。 看取り介護を実施する場合は、利用者や家族等と段階毎に話し合い、希望を確認しながら医療機関と連携を図って終末期ケアに取り組んでいる。 看護職員を中心に、定期的に看取りに関する研修を実施しているほか、職員の希望により外部研修を受けさせるなど、職員の意識向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備えて、応急処置・初期対応が実践出来るよう研修などを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いを含め年2回の消防訓練を実施している。避難訓練の実施記録を作成し、今後の課題などを記録している。災害時に備えて備蓄品は数量や賞味期限などを記載した一覧表を作成して管理している。また非常時給水タンクシステムを設置している。	避難訓練は消防署立ち会いを含めて年2回実施しているが、夜間想定での実施には至っていない。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合っって記録に残し、次回の訓練に活かしている。 災害に備え、食糧や飲料水などの備蓄品を数量や賞味期限を記載した一覧表を作成して管理している。	年1回は夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、地域住民の参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者を人生の先輩として尊重し昔の風習や生活の知恵・節の行事に関することなどを聞くようにしている。一人ひとりに対して言葉遣いや対応に気をつけ、プライバシーを損なわないよう務めている。入居者の書類は鍵がかけられる事務所に保管している。	職員は利用者の個性やこだわりに配慮し、一人ひとりの人格を尊重しながら、入室時のノックや声かけ、排泄時の声かけなど、周りの利用者にも配慮しながら対応をしている。 個人情報に関する書類は鍵のかかる事務所の戸棚に保管し、情報の漏洩に留意している。 個人情報を使用する場合は家族等の同意書を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者それぞれに合った声掛けや対応を心掛け「何がしたいのか」「何を望んでいるのか」職員と共に思いを理解し、本人が表現しやすい環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状態に合わせて本人の希望を大切にしながら、入居者がそれぞれのペースでゆったりと過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に洋服を選んで着て頂いたり、ご本人、ご家族の希望により馴染みの美容室に出掛けることや、訪問理容サービスの利用も行っている。その方らしい身だしなみや、おしゃれを楽しむことができるように支援をしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れ、どのような料理にしたら良いか一緒に考え得意だった料理のアドバイスをいただいたりしている。誕生日には手作りケーキとお刺身でお祝いしたり、外食を取り入れて食事が楽しみになるように支援している。	自家菜園で収穫した野菜を中心に、ユニット毎に調理担当職員が栄養バランスを考えながらその日の献立を立てて調理している。利用者はできる範囲で盛り付けや配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。誕生日には手作りケーキとお刺身などの特別食を取り入れたり、「食彩なかよし」などへ外食に出かけたりして食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や職員が、入居者の状態、好みに配慮し、美味しく食事が取れバランスの良いメニューを考えている。水分摂取は、状態に合わせて回数を増やしたり飲み物を変えたり工夫しながら摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで介助し、義歯の洗浄、歯磨きは出来るだけご自分でやって頂けるようにしている。口腔内の清潔を保ち状態を確認し、必要があれば訪問歯科に診察してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄パターンやリズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を勧めている。立位が困難な方も職員が2人介助で行いトイレで排泄ができるよう支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立ができるように支援している。夜間おむつを使用している利用者でも、日中はリハビリパンツを使用して声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。夜間はポータブルトイレや声かけ誘導をして、おむつの使用を減らすように努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家菜園で収穫した野菜を中心に、食事メニューに取り入れ食物繊維を多く摂取して頂けるようにしている。大目の水分補給とヨーグルト・バナナなども勧めている。また、体操・散歩・生活リハビリをして予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週3回となっているが毎日用意し入居者の体調・希望に応じて対応している。医師の指示により終末期であってもできるだけ湯船に入って頂けるように2人介助で行っている。端午の節句や冬至には、菖蒲湯や柚子湯にして季節感を取り入れ、入浴が楽しみなものとなるよう支援している。	入浴は毎日沸かし、利用者の希望にそっていつでも可能となっており、最低でも週3回は入浴ができるよう支援している。 医師の指示により、終末期であってもできるだけ湯船に入れるよう、二人介助で対応している。 入浴を拒む利用者には強要はせず、時間をずらしたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。 菖蒲湯や柚子湯などで季節感を取り入れ、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動、レクリエーションや散歩などで夜間の睡眠がとれるようにしている。日中も部屋で休んだり、ソファで横になって休んだりしている。各部屋の室温は、ご本人が過ごしやすい室温にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの十分な説明を受け薬剤師との連携をしている。薬の作用、副作用を理解し服薬介助、服薬管理、服薬確認を行っている。薬が変更された時には、ご家族にも伝え、職員も把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自家菜園で収穫された野菜の下ごしらえや漬物の漬け方を教えて頂いたりしている。花壇に植える花の種や野菜の種を蒔くのを手伝って頂いている。洗濯物もできるだけたんで頂けるように勧めている。カラオケや散歩も楽しみの一つとなっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望・体調・天候に合わせ散歩に出掛け、地域の方と触れ合う機会を作っている。時には施設の中庭にテーブルと椅子を設置し、花を見ながらお茶を飲み日光浴している。季節行事の花見や盆踊り、外食など職員が同行して外出の機会を作っている。また、帰宅や外出の際には、ご家族の協力を得ながら支援している。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、施設長や職員による自家菜園の畑仕事を手伝ったり見学したりして五感を刺激するなど、四季の移り変わりを楽しんでいる。 中庭にテーブルと椅子を配置し、利用者がお茶を飲みながら日光浴や外気浴を楽しめるよう支援しているほか、花見や地域の盆踊り、スーパーへの買い物など、外出機会を積極的に増やし、利用者が気分転換が図れるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は自分で管理し、買い物の支払いなどご家族の了解のもとご本人がされている。出来ない方は、必要に応じてご家族にお願いしたり、施設で立て替えるなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が、ご家族や知人等に電話を掛けたいとの希望があれば、事務所の電話を使って頂いている。手紙などを出したいと希望があれば、職員がお手伝いしながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・トイレ・食堂には、庭で咲いた季節の花を絶やさないように生けている。また、季節を感じて頂けるように、こいのぼりやクリスマスのイルミネーションも取り入れている。玄関・食堂に加湿器を置き湿度に配慮したり、音楽を流しゆったりとした、和みの空間を得られるようにしている。	玄関や食堂には除菌や消臭を兼ね備えた加湿器を配置し、利用者の健康管理に留意するとともに、玄関には季節の花や鉢植え、施設長が作成した吊るし雛などを飾り、季節感のある温かい空間になっている。 居間の壁には、職員が行事の際に利用者の様子を撮影した楽しい思い出の写真を掲示して、心む演出をしている。 廊下は広く手摺を設置するとともに、利用者が疲れた時に休息できるよう廊下の隅に椅子を配置して、安全に暮らせるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で趣味の時間を過ごしたり、面会の方が来た時は、部屋でゆっくり気兼ねなく過ごして頂いている。気の合う方を部屋に招いて、お茶を飲みながらお話したり、ロビー・廊下に置いた櫛の椅子に座り、お話を楽しんだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は床暖房で、エアコン、カーテン、照明器具、クローゼットを備えている。ご本人、ご家族と相談し、馴染みの家具、テレビやご家族の写真などを飾っている。	居室は床暖房で、エアコンやカーテン、クローゼットが備え付けられている。利用者はベッドや布団、テレビ、整理筆筒、椅子など使い慣れた馴染みの物品を持ち込んだり、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は段差がなく、玄関・トイレ・廊下・食堂・浴室には手すりを設置している。「車椅子使用を出来るだけしない」を目標に、環境を活かし、筋力が低下しないよう、時間がかかっても出来る事は、見守りしながら行って頂けるよう支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなかよし

作成日 平成28年7月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定避難訓練や地域住民の参加を得ての実施には至っていない。	夜間想定避難訓練に地域住民の参加を得て実施する。	避難訓練計画に夜間想定を取り入れ地域住民の協力を得て実施する。	2か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。